

第 I 章

羽幌町の環境の現状と課題



(上から) 天売島・焼尻島、市街地・田園・羽幌川・福寿川

第1章 羽幌町の環境の現状と課題

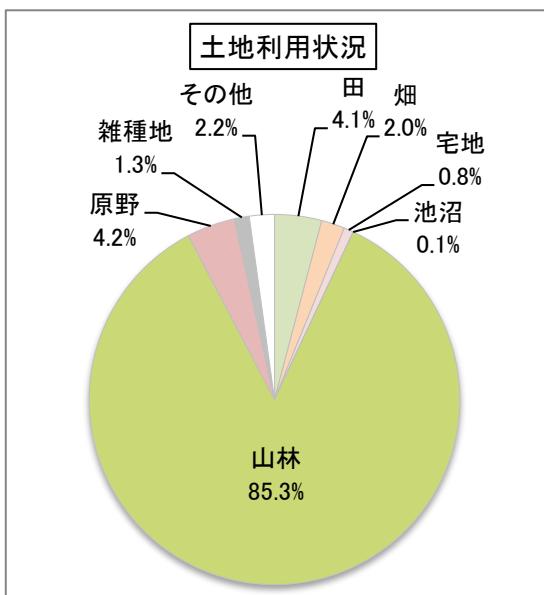
I 羽幌町の姿

羽幌町は、北海道の北部日本海側に位置し、道庁所在地の札幌市へ約200km、地域行政の中心地留萌市までは約50kmの距離にあります。

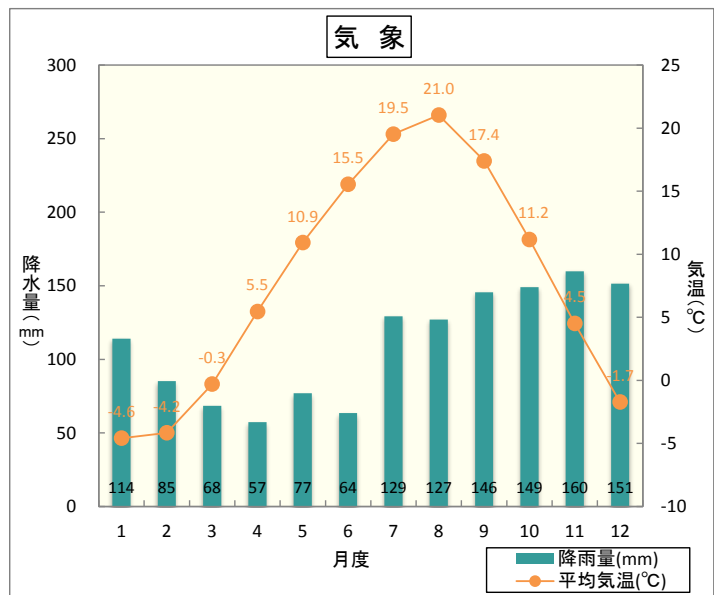
日本海沖24kmには「暑寒別天売焼尻国定公園」に指定されている天売島、焼尻島があります。

総面積472.65km²のうち山林が85.3%を占め、次いで田・畑が6.1%を占めています。

気候は、年間を通してシベリアから吹きつける季節風の影響で風の強い日が多く、夏季は温暖で春から初夏にかけて乾燥し、晩夏から冬にかけて多雨、そして冬季は湿潤寒冷で積雪が多く対馬暖流の影響で内陸部よりは温暖ですが、季節風に雪がともない、しばしば暴風雪となる日があります。

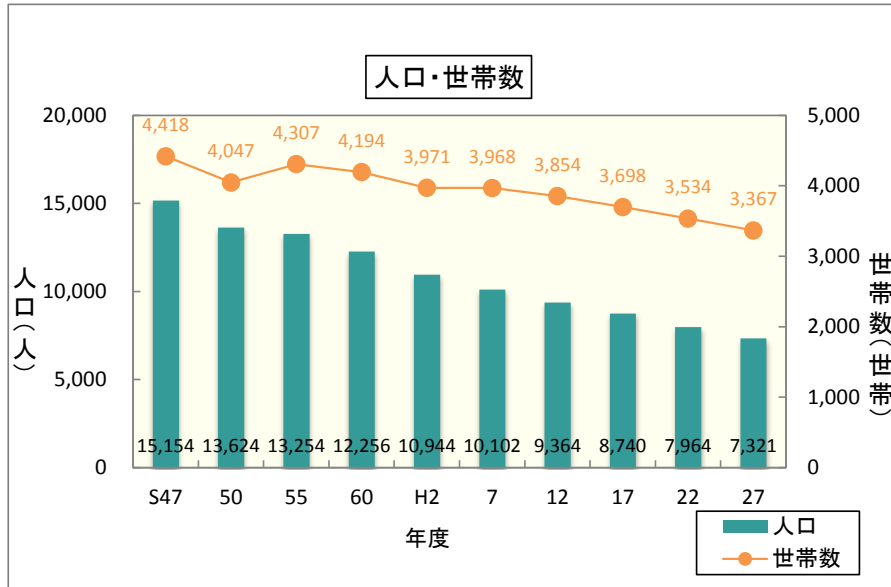


資料 土地利用状況：羽幌町勢要覧資料編（2016年）

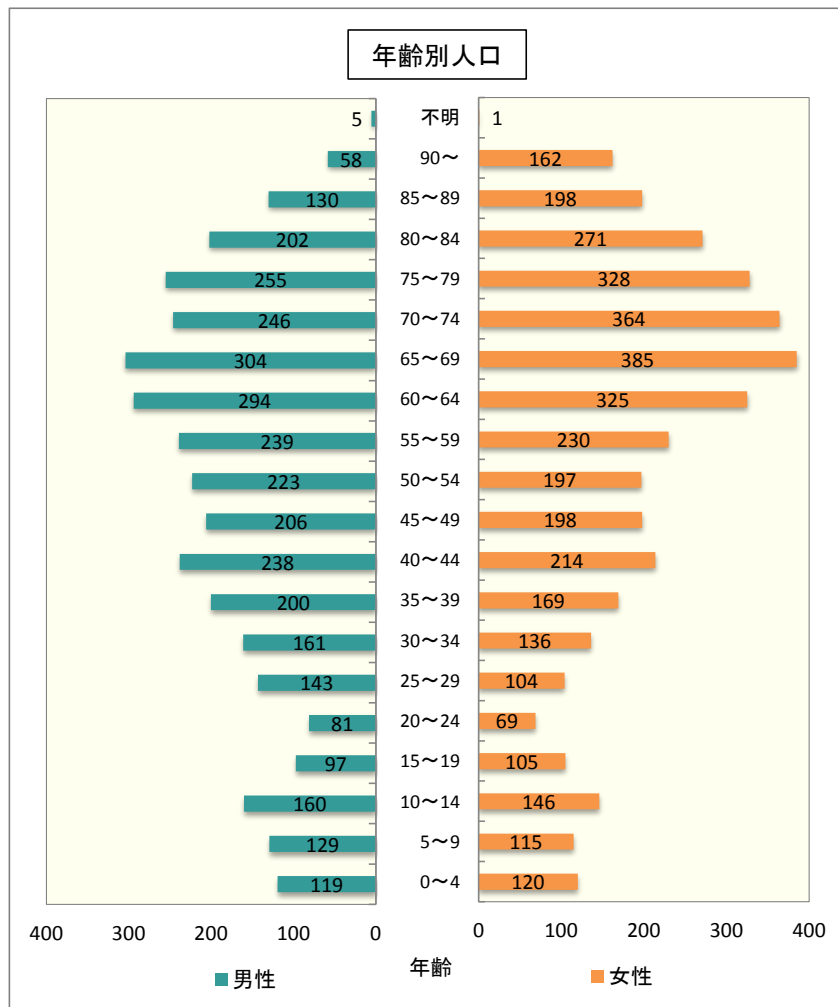


資料 気温、降水量：気象庁統計（平成8年～27年の平均値）

人口は7,327人、世帯数は3,367世帯（平成27年国勢調査）で、うち羽幌地区には6,779人、天売地区321人、焼尻地区208人（平成29年1月末現在）で、人口の約9割が羽幌地区に集中しています。



資料 人口、世帯数：国勢調査



資料 5歳階級別人口：平成27年国勢調査

○羽幌地区 市街地

市街地には公共施設や商業施設が集まり、羽幌町の中核としての機能を果たしています。

また、はぼろサンセットビーチやはぼろ温泉サンセットプラザ、はぼろバラ園などの観光資源があることから、観光客が多く集まる地域でもあります。



○羽幌地区 農村部

羽幌町の基幹産業である農業が盛んな地域です。水稻を中心に畑作、酪農が行われています。



○羽幌地区 山林地域

羽幌町面積の9割弱を占める山林で、その8割強が国有林となっています。



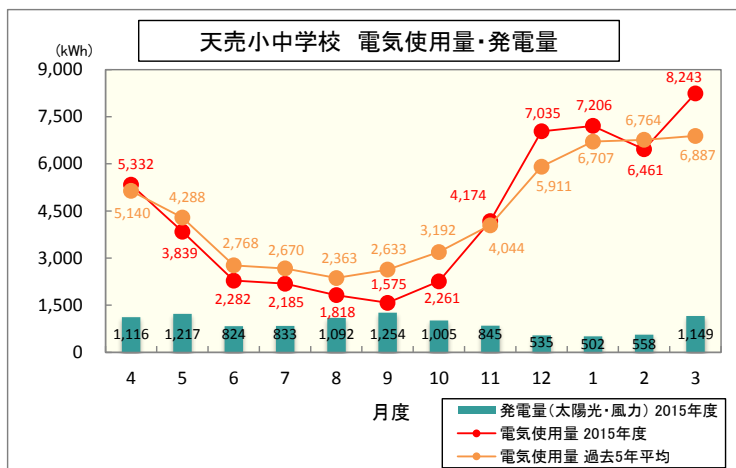
○天売地区

天売島は周囲12kmの小さな島で、東側の海岸線に人口300人強の島民が生活をしています。

反対の西海岸は断崖絶壁がつづき、「海鳥繁殖地」として国の天然記念物に指定されています。4月から8月までは8種類の海鳥が繁殖しており、約100万羽が集まる海鳥の島となります。

島の産業は水産業と観光業が中心であり、4月から9月の間には両島あわせて約1万5千人の観光客が訪れます。

島の電力は、焼尻島の火力発電所から海底ケーブルを伝い供給されています。また、CO₂排出の低減の取組みの一環として、天売小中学校の敷地内で太陽光発電や海風を利用した風力発電を行っており、得られた電力は一部校内の照明に使われたり、非常時の電力供給源として備蓄されています。



資料 天売小中学校 電気使用料・発電量：羽幌町

○焼尻地区

焼尻島は天売島とほぼ同じ周囲12kmの小さな島で、東西の海岸線に人口200人強の島民が生活をしています。

島の中央部には国の天然記念物である「焼尻の自然林」があり、イチイとミズナラを中心とする原生林が広がっています。

島の産業は水産業と観光業が中心であり、天売島と同様に夏季には多くの観光客が訪れます。

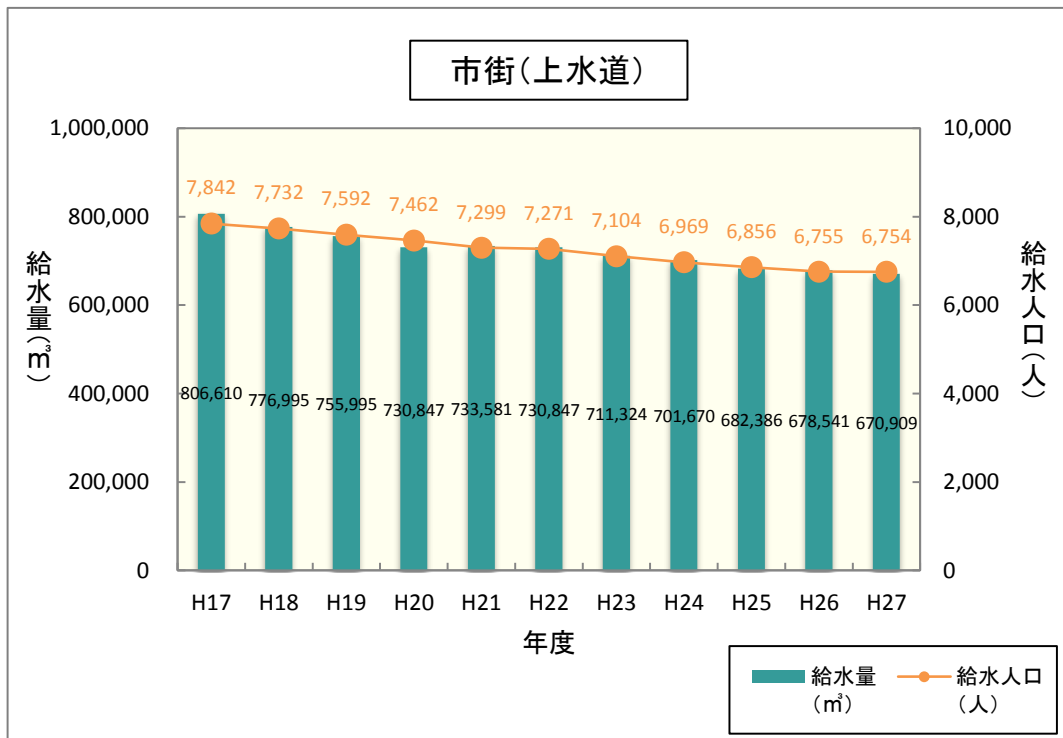
島の自然環境を保全する取組みの一環として、ボランティア団体によって海岸の清掃活動が行われています。



○水の使用

年度	市街(上水道)		天売(簡易水道)		焼尻(簡易水道)		曙(簡易水道)	
	給水量 (m ³)	給水人口 (人)	給水量 (m ³)	給水人口 (人)	給水量 (m ³)	給水人口 (人)	給水量 (m ³)	給水人口 (人)
H17	806,610	7,842	28,844	393	20,499	320	590	10
H18	776,995	7,732	27,673	401	20,643	317	584	9
H19	755,995	7,592	26,065	370	19,915	298	472	5
H20	730,847	7,462	25,101	366	18,968	291	380	6
H21	733,581	7,299	25,429	369	17,955	281	367	6
H22	730,847	7,271	25,503	371	18,371	263	308	5
H23	711,324	7,104	24,614	351	17,508	246	471	5
H24	701,670	6,969	24,722	351	17,082	230	-	-
H25	682,386	6,856	23,324	343	15,408	219	-	-
H26	678,541	6,755	22,370	317	14,983	196	-	-
H27	670,909	6,754	21,614	313	15,053	199	-	-

資料 水道使用状況：羽幌町

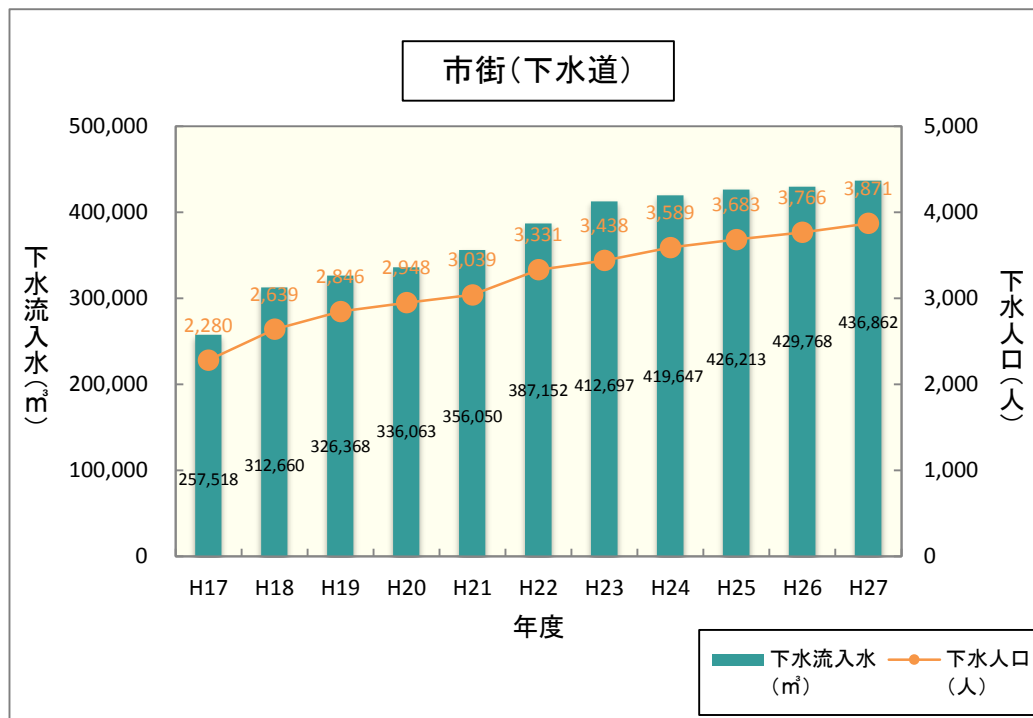


○下水道の整備状況

年度	下水流入水 ¹ (m ³)	下水人口 ² (人)	水洗化率 ³ (%)
H17	257,518	2,280	36.5
H18	312,660	2,639	41.8
H19	326,368	2,846	44.0
H20	336,063	2,948	45.9
H21	356,050	3,039	47.2
H22	387,152	3,331	51.0
H23	412,697	3,438	52.5
H24	419,647	3,589	55.9
H25	426,213	3,683	58.1
H26	429,768	3,766	60.1
H27	436,862	3,871	62.6

- 1 下水流入水…浄化センターに流入する下水水量
- 2 下水人口…下水道を利用している人数
- 3 水洗化率…下水道を利用できる人のうち実際に下水道を利用している人の割合

資料 下水道整備状況：羽幌町



○ごみの排出

年度	可燃ごみ(t)		不燃ごみ(t)		資源ごみ (t)	危険ごみ (t)	廃食用油 (t)
	生ごみ	一般ごみ	粗大ごみ	破碎ごみ			
H17	620	1,064	76	90	1,105	5	6
H18	567	1,062	73	92	1,093	5	5
H19	548	1,003	58	82	1,049	5	5
H20	509	1,001	50	76	936	4	4
H21	512	1,000	62	82	840	5	5
H22	495	1,022	64	88	795	5	5
H23	500	1,039	58	95	747	4	4
H24	505	1,042	71	100	722	4	3
H25	484	1,062	87	116	710	4	4
H26	477	1,077	102	118	671	4	3
H27	455	1,060	105	106	632	4	3

資料 ごみ処理状況：羽幌町



2 羽幌町の環境が抱えている課題

ここでは、「優れた自然環境の保全」「野生生物の保護（海鳥保護）」「身近な環境の保全」の3つの視点から現況を整理し、羽幌町の抱えている課題を抽出して「第2章 羽幌町のめざす環境」を導きます。個別の課題については「第5章 地域別・事業別等環境配慮の方針」で改めて整理し、方針を定めるものとします。

(1) 優れた自然環境の保全

焼尻の自然林¹は、推定5万本のオンコ（イチイ）の原生林やミズナラ、イタヤカエデなどの広葉樹から形成される優れた自然林で、昭和58年に国の天然記念物に指定されました。ミズナラとオンコが複層林（二段林）を形成する優れた植生を示していますが、上層林であるミズナラ群生域が優勢となり、拡大しつつあります。また、自然林内のオンコは老木や立ち枯れ・倒木が多くなっており、今後のオンコ林の存続を考えると後継樹が少ないことが憂慮されています。

そのため地域の人々は車の通行を規制するなど、原生林の保全に努めています。天然記念物であり、国定公園の特別保護地区内のため枝打ちや伐採などの管理が出来ず、年々イチイの生育範囲が高木広葉樹に侵食されています。

また、羽幌町の森林面積は行政面積の約9割を占めますが、羽幌地区には里山のように身近な自然を感じることができない山林はありません。

課題

- ・ 貴重な植生を示す自然林を良好な状態で保全するため、様々な取り組みを行う必要があります。
- ・ 身近な自然に親しめる環境づくりを整える必要があります。



1 焼尻の自然林…現地案内板の説明文より

国指定天然記念物
焼尻の自然林

指定年月日
昭和58年8月30日

指定の理由

特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準 天然記念物植物二（稀有の森林植物相）による

焼尻島は、羽幌港より海上24km離れた日本海に浮かぶ面積530haほどの島である。

この島の中央部東側にミズナラを主とし、ベニイタヤ、ハリギリ、ヒロハノキハダなどを交える広葉樹林が育成し、谷筋にはアカエゾマツを主とし、これにエゾマツを交える針葉樹林が発達した第一層を構成している。イチイ（オンコ）は、これらの林の第二層を構成し、林内一円に広く分布し、中には樹齢数百年と言われるものもある。また、上層木を欠く風衝地ではイチイがハイマツ状に発達しているところもあり、形態的にも興味深い。

この自然林の保存状態は良好で、また島嶼性気象条件下に成立したものとして学術上貴重であり、天然記念物に指定して保存を図る。

(2) 野生動物の保護（海鳥保護）

天売島の西海岸は高さ150mを越える断崖絶壁が続き、これらの岩棚に春から夏にかけてウミガラス（オロロン鳥）、ケイマフリ、ウミスズメ、ウトウ、ウミウ、ヒメウ、ウミネコ、オオセグロカモメの8種類約100万羽の海鳥たちが繁殖する、世界有数の海鳥繁殖地です。

中でも80万羽が繁殖しているウトウにとって、世界最大の繁殖地となっています。また、ウミガラス（オロロン鳥）とウミスズメにとっては国内唯一の繁殖地、ケイマフリにとっては国内最大の繁殖地です。この天売島海鳥繁殖地は昭和13年（1938年）に国の天然記念物に指定されました。

しかしここ数十年の間に、ウミガラス（オロロン鳥）、ケイマフリ、ヒメウなどが急速に数を減らし、絶滅危惧種に指定されるまで減少しています。また、近年はウミネコが激減しており、観音岬の集団繁殖地が消滅するなどの変化が見られています。

この原因は色々考えられますが、地球温暖化による海水温の上昇や海流の変化などの影響で餌となる魚種が減少していることや、天敵のハシブトガラスやオオセグロカモメ、ノラネコ、ドブネズミ等による捕食、底刺し網による混獲などが指摘されています。

また天売島周辺の海域は、ロシア極東地域からの石油などの物資の輸送経路となっており、海難事故による油汚染等の影響を受けやすい状況にあり、海洋汚染、漁業被害、海鳥被害に対する危険性が増しています。

一方でウトウは増加傾向にあり、周辺海域の魚種の変化などにより餌資源が向上したためであると考えられています。また、一時期は十数羽にまで減少したウミガラス（オロロン鳥）は、環境省の保護増殖事業により繁殖数や巣立ち数が増加するなど、少しずつではありますが、回復傾向にあります。

さらに天売島では、海鳥の捕食者のひとつとして考えられているノラネコの対策が進められています。平成24年に「天売島ネコ飼養条例」を制定し、飼い猫の登録を義務化しました。平成26年からはノラネコを島外に搬出して飼い猫として馴化し、譲渡する取り組みが続けられています。これらの取り組みにより、激減したウミネコの個体数が多少増加するなどの効果が見られています。

課題

- ・海鳥の繁殖に影響のない観光のあり方を模索する必要があります。
- ・海鳥に影響のない漁業環境、漁法等の研究を行う必要があります。
- ・絶滅が危惧されている海鳥の天敵のハシブトガラスやオオセグロカモメ、ノラネコ、ドブネズミなどを増やす原因である生ごみや廃棄物の適正な処理を進める必要があります。
- ・多様な生態系の中の海鳥を理解しながら、海鳥を守る考えを広めるよう努力する必要があります。
- ・急激に数を減らしている海鳥を増やす事業を行う必要があります。
- ・海鳥の生息できる海洋環境を取り戻す必要があります。
- ・海難事故等による海洋汚染への対応の研究を行う必要があります。

(3) 身近な環境の保全

人を含む全ての動植物やこれから生まれてくる未来の子どもたちにとって健全な生態系を維持するために、空気、河川、海、土壌などの身近な自然環境の保全が必要です。

これからも、豊かな自然環境を守り、環境負荷¹の少ない循環型社会²の構築を進め、地域から地球環境への保全へと続く取組みが求められます。

課題

- ・有害物質に汚染されていない空気、河川、海、土壌などを将来へ引き継ぐ必要があります。
- ・自然と共生する伝統的な歴史や環境保護を文化として将来に引き継ぐ必要があります。
- ・羽幌町の身近な自然や多様な生き物が織り成す生態系を守り、将来にわたってまちづくりと自然保護の調和を図る必要があります。
- ・身近な自然や守り続けなければならない自然を観察できる場所を、将来の子どもたちに確保する必要があります。
- ・省エネルギー、ごみ排出量の抑制、資源の再利用・再資源化などの循環利用を進め、環境への負荷の少ない地域社会をつくる必要があります。
- ・地球環境問題の改善に羽幌町として貢献する必要があります。

1 環境負荷…『人の活動により、環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるもの』(環境基本法)。フロンなどのように、それ自体は無害でもオゾン層破壊を引き起こす原因となるようなものも含まれる。

2 循環型社会…

- ・ごみが発生しにくい社会
- ・リサイクルしやすい社会
- ・ごみが適正に処分される社会

↓

- ・天然資源の消費や環境負荷が低く抑えられている社会

